資料　５

田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会以外で

いただいたご意見について

目　次

１　電子メール等

（１）方策の検討について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）通学や通学路について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

（３）地域について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　令和５年請願第１号　田浦小学校の存続について
　田浦小学校統廃合計画の見直しについての請願・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３　田浦小学校の統廃合計画についての地域アンケート結果及び田浦小学校の統廃合計画
についての要望書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４～９

1　方策の検討について

No.	内　容
1	学校の統廃合が児童数だけで決められるのであるなら、小規模校の統合はやむを得ないかもしれない。しかし、ますます少子化の進む中では、いつでも、どこでも児童数の減少は起こりうることで、その都度、統廃合を続けていかなければならなくなる。１学級の人数を減らすことも考えられている中で、少人数は本当に良くないのか。行政効率が良くないことはわかるが、教育は将来に向けての先行投資である。 そこで、教育面から小規模校の存在意義を十分検証し、存続させる方策はないものか、その可能性や条件について議論されることを期待したい。 なお協議会ニュースや会議録では統合後の校舎の利用方法や通学方法が協議されており（これも大事なことである）、すでに統廃合が決まったかのような印象を強く受けています。
2	協議会ニュースを回覧で見ると統廃合のメリットばかりが強調されているように感じます。
3	子育てと仕事の両立ができると思ってこの場所に家を建てましたが、教育環境整備計画の存在を知り、とても不安な気持ちになっています。
4	土砂災害警戒地域や人口減少については以前から分かっていたことですし、最初から分かっていたら田浦に家は建てていません。５年という期間はあまりに乱暴だと感じましたし、毎晩不安で眠れない日々を過ごしています。
5	これまで、様々な観点から協議してこられた中間報告として各協議会ごとに統廃合のメリット、デメリット、課題について整理されていると思うので公表してもらいたい。
6	田浦６丁目や港が丘１丁目から長浦小学校までは遠すぎると思います。小学校　１年生の児童が重いランドセルを背負ってトンネルを通ったり山を上り下りしたりすることを考えただけでも涙が出てきます。せめて、田浦４、５、６丁目と港が丘１丁目は船越小学校と長浦小学校を選べるようにしてほしいです。
7	船越小学校に行けるよう教育委員会にお願いしたが、前例がないとの事で却下されました。境目に住んでいて指定校よりも近くに学校がある場合は、どちらか選べるようにしていただきたいです。
8	今仕事をしなくても船越小学校を選べるなら、すぐにでも仕事を辞めて妊活を始めたいですし、学区の事でこんなに悩んでいる人もいることを知ってほしいです。
9	住む地域によっては、長浦小学校あるいは船越小学校が近いこともあると思いますので、田浦地区全体を長浦小学校に編入するのではなく、どちらか選択制にしてはいかがでしょうか。
10	子どもを田浦小学校に通わせることを前提に、この地に家を建てた方が他にもいると聞いています。会議に参加しているメンバーだけで全てを決められては困りますので、今後、我々のような一住民の思いや意見を行政の方（特に市長）に直接生で聞いていただける場を設定していただくことは難しいでしょうか。

2　通学や通学路について

No.	内　容
1	通学路が最大３kmとなり、子どもの脚力で毎日往復２時間も通学させるのは酷ですし、近年の酷暑から命の危険も考えられます。親として子どもに徒歩で通学させることはさせたくありませんし、反対します。
2	田浦駅発着のスクールバスあるいは公共バスを利用するのであれば、その分の交通費を市に補助していただきたいです。

3　地域について

No.	内　容
1	今回の計画で一番ダメージを受けるのは、我々のような「これから田浦小に子どもを通わせるつもりでいる」方々ですので、ぜひ我々の声を生で聴いていただく機会を設定してください。

令和５年請願第１号　田浦小学校の存続について

写

田浦小学校統廃合計画の見直しについての請願

請願の趣旨

４歳の娘と１１か月の息子がおります。私は大和市で幼稚園の教員をしております。（現在育休中です。）夫は市内に勤務しております。

子育てと仕事の両立ができると思い、４年前に田浦に家を建てました。高齢の方が多い地域ですが、みなさんとても温かく接してくださり、私たち家族にとって大好きな場所になりました。

横須賀市教育環境整備計画を知って、すごく不安な気持ちになっています。土砂災害警戒地域や人口の減少については前々から分かっていたことなのに、「早ければ令和８年度に田浦小学校がなくなるかもしれない。」という話は、あまりに乱暴であると感じました。それが最初から分かっていたら、田浦に家なんか建てていませんし、横須賀市に転入してきませんでした。「このままでは、仕事と育児の両立を諦めるしかないのでは…フルタイムには戻れないのでは…３人目の子どもは諦めた方がよいのでは…」と、毎晩不安で眠れない日々を過ごしております。

私たちのように、田浦小に子どもを通わせることを前提として、この地に家を建てた方が他にも多くいらっしゃると聞いています。

高齢の方が多い地域ですが、我々のような若い世代が転入してくることによって、町は活性化していきます。もし、田浦小学校の統廃合が決まってしまえば、若い世代が入ってきにくくなり、田浦町は廃れてしまいます。

田浦小学校をすぐに無くされてしまっては困ります。田浦小学校の存続を求めます。

請願項目

１．田浦小学校を無くさないでください。

令和５年１月２０日

横須賀市議会議長
　大野　忠之 様

請願者

田浦小学校の統廃合計画についての地域アンケート結果

2023年　5月　19日
田浦小学校を考える会

わたしたち《田浦小学校を考える会》は、「田浦小学校の統廃合計画についての地域アンケート」を実施しました。①田浦小学校を廃止し長浦小学校と統合する計画（以下、学校統廃合計画）について知っているか、②田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会（以下、協議会）でどのような協議がされているか知っているか、③どのように学校統廃合計画や協議会について知ったか、④学校統廃合計画についてどう考えるか、⑤学校統廃合予定の時期についてどう感じるか、⑥学校統廃合後の通学路が危険だと思うか、⑦学校統廃合後にスクールバスが必要だと思うか、⑧学校統廃合は地域の衰退に繋がると思うか、を問いました。

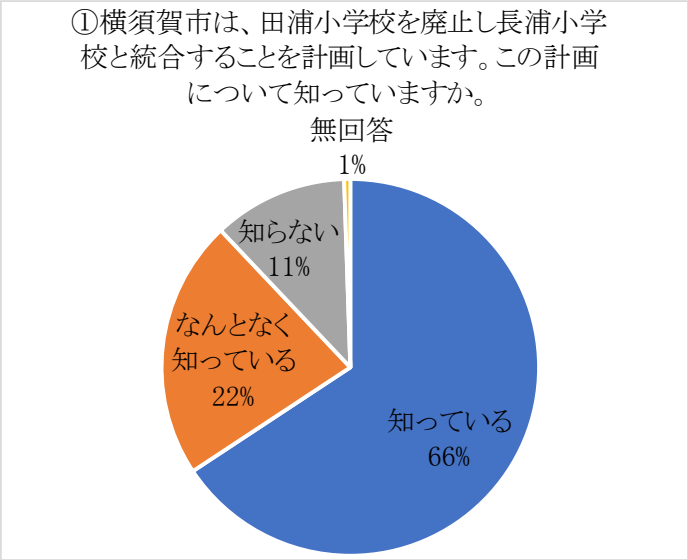
アンケート対象者は、田浦小学校学区内にお住まいの方　及び　田浦小学校に通う子どものいる方　で、学区内全戸配布し、回答世帯数は382世帯（内、小学生以下の子どもがいる世帯52世帯）にのぼりました。

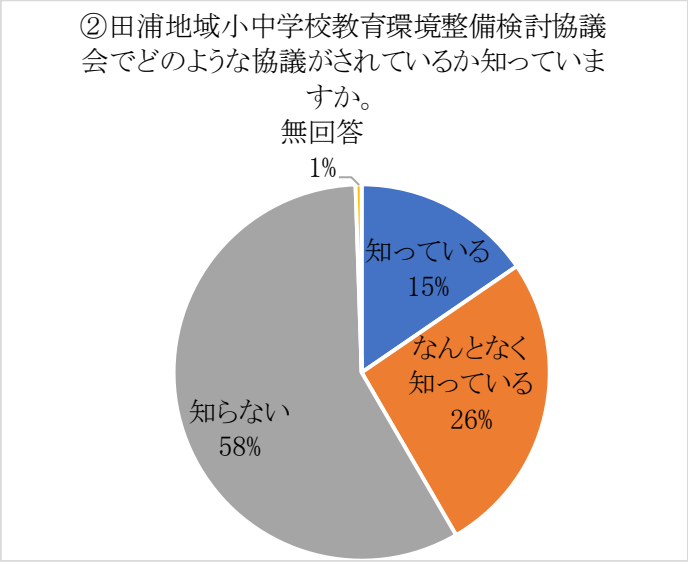
1．学校統廃合計画について88％が「知っている」「なんとなく知っている」、協議会について58％が「知らない」と回答

学校統廃合計画について（①）、合わせて88％が「知っている」「なんとなく知っている」と回答したことに対し、協議会について（②）は41％が「知っている」「なんとなく知っている」と回答、58％が「知らない」と回答していることから、学校統廃合計画についてはある程度知られているが、協議会で行われている協議内容についての周知が行き届いていないことが分かりました。

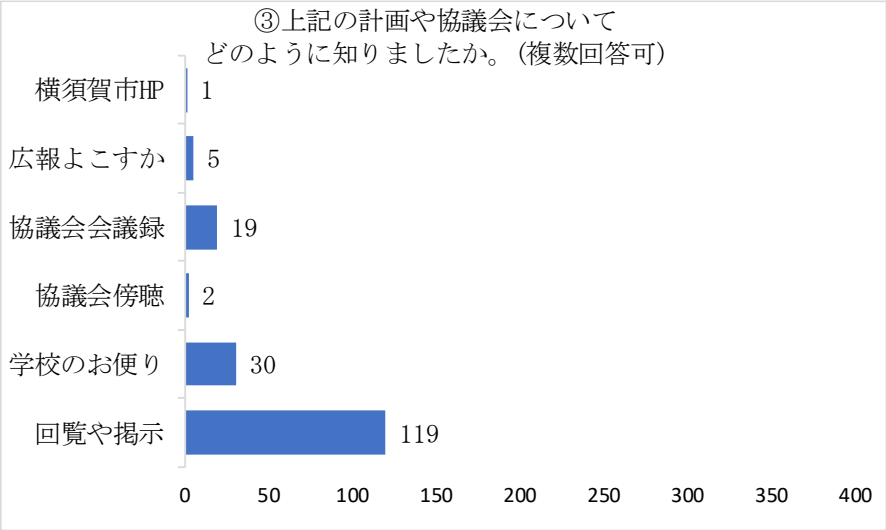
どのように学校統廃合計画や協議会について知ったか（③）では、「協議会ニュース」を想定した選択肢である「回覧板や掲示」「学校のお便り」を選択した回答者は、全体の約3～4割にとどまりました。回答者の過半数が「協議会ニュース」に目を通していないことが窺え、協議内容の情報提供において、回覧で「協議会ニュース」を回すだけでは不十分であることが分かります。

学校統廃合計画や協議会の進め方について、「初めて聞く話で驚いた」「協議会が行われているのを知らなかった」「協議会ニュースでは、どこまで話が進んでいるのか分かりにくい」「誰に意見を言ったらいいか分からない」「限られた委員だけで決めていることに疑問を感じる」「学校統廃合ありきで、協議を後付けしているように思える」「学校に通っ





ている子どもや保護者の意見も尊重して欲しい」「住民への説明が不足したまま、計画を進めるべきではない」「学校統廃合を決定する前に、地域の住民の意見を聞く場を開くべき」「地域全体の総意を考慮して決定されるべき」「住民が納得出来るだけの対応がなされてから学校統廃合の議論をすべき。課題の解決を先送りにしては、統合後に小学校の安定した運営がなされるかどうか不安に感じる」などの意見があり、住民への周知や意見の吸い上げ、課題への解決策の提案が不十分な中、計画が進んでいくことに対して、住民が不安を感じていることが読み取れます。



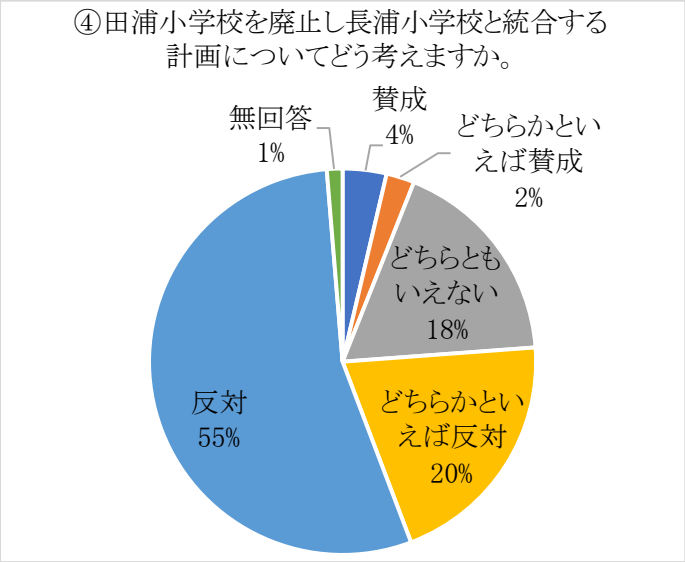
2．学校統廃合計画について75%が「反対」「どちらかといえば反対」と回答

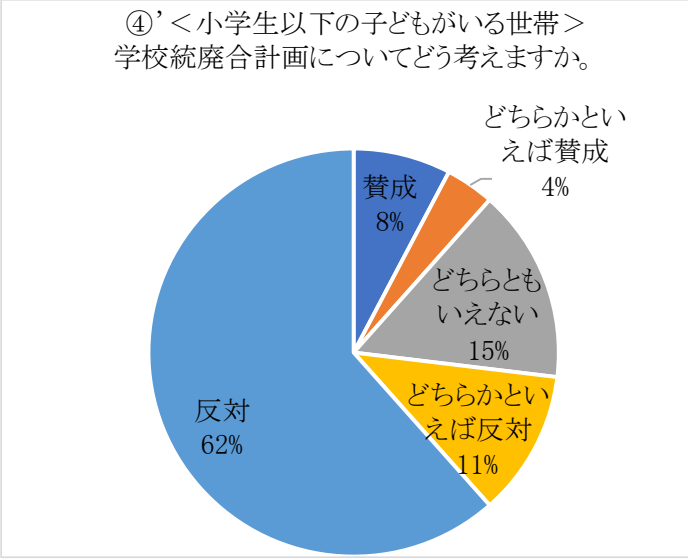
学校統廃合計画についてどう考えるか（④）では、「反対」55%・「どちらかといえば反対」20%、合わせて7割以上が、学校統廃合計画に反対寄りの考えであることが分かりました。

小学生以下の子どもがいる回答者においては、学校統廃合計画について（④‘）「反対」62%・「どちらかといえば反対」11%と回答しており、小学生以下の子どもがいる回答者の約7割以上が学校統廃合計画に反対寄りの考えであることが分かりました。

「反対」「どちらかといえば反対」とした回答者は、その意見として「近くの場所での教育が一番大事」「子供たちの安全と地域のために小学校が地域にある方が良い」「田浦地域は非常に広く、子どもの安全面からも統合は無理がある」「小規模校として存続させるべき」「校舎の規模が小さくても良いので存続して欲しい」「地域が見捨てられてしまうように感じる」「母校なので寂しい」などを挙げ、小学校が地域に在ることの必要性を感じていることが読み取れます。

「反対」「どちらかといえば反対」と答えた回答者が「小規模校の方が先生方の目が行き届くと思うので、このままがいい」「小規模校は子ども達一人一人と向き合う時間が充





実しており、良い環境」「少人数だときめのこまかい教育ができる」「支援学級の子どもが通常学級の子どもと一緒にのびのびと学校生活を送っている」など、小規模校の良さを挙げる一方で、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらともいえない」とした回答者からは、「子どもが増える見込みがないのであれば仕方がない」「子どもが成長する為には、多くの人々と触れ合うことも大切」「もっと人数が多ければと思うこともあった」「たくさんの子どもと競争して欲しい」「人間関係が上手くいかなくなった際に、単学級だと逃げ場がない」「費用対効果を考えれば当然のことと思う」など子どもの人数が少ないことのデメリットを懸念した声が寄せられました。

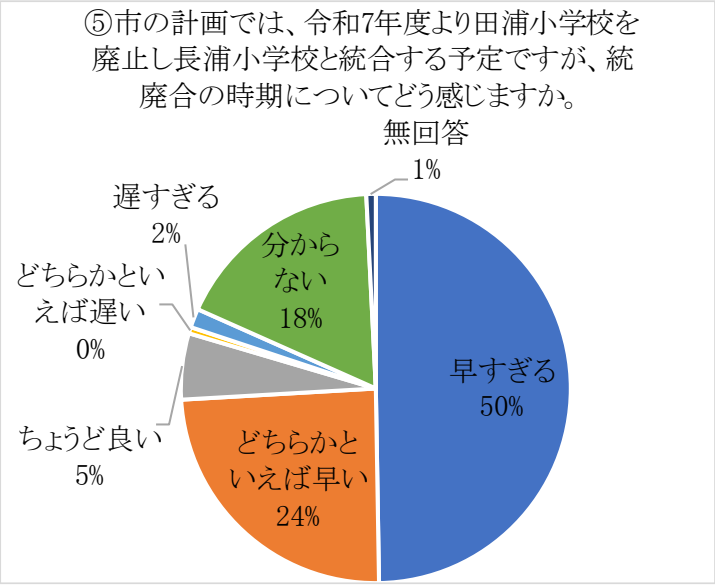
小規模校としての存続に対して、「アーティスト村と連携して特色ある教育を行っていることから、小規模特認校に指定し、学区外からも子どもが通えるようにするのはどうか」「支援学級には、田浦小学校のインクルーシブ教育に惹かれて学区外から通っている児童も多くいる。インクルーシブ教育推進校に認定するなどして残して欲しい」「スクールコミュニティを推進することで、多くの地域の人々と接することができ、小規模校のメリットを生かすことが出来る」「学校統廃合ではなく、定期的に長浦小学校と田浦小学校の交流を行うのはどうか」などの提案がありました。

校舎の老朽化に対しては、「老朽化が進む築69年の旧校舎だけをなくし、対応することが出来ればと思う」「長寿命化計画により、校舎は築80年まで使用出来る（耐震工事済・残り11年）ので、古くなったところは直して、長く校舎を使って欲しい」「同じ敷地内での校舎の建て替えが難しいなら、別の場所に新しい校舎を建設して欲しい」「別の場所に小中一貫校を建てて欲しい」などの提案がありました。

また、学校統廃合により生じる課題として、「長浦小学校まで遠すぎる」「長浦小学校までの通学路が危険」「学童保育や放課後等デイサービスの受け入れはどうなるのか」「小学校が無くなると地域が衰退してしまう」「跡地はどうなるのか」などの課題の提示がありました。

3. 学校統廃合予定の時期について74%が「早すぎる」「どちらかといえば早い」と回答

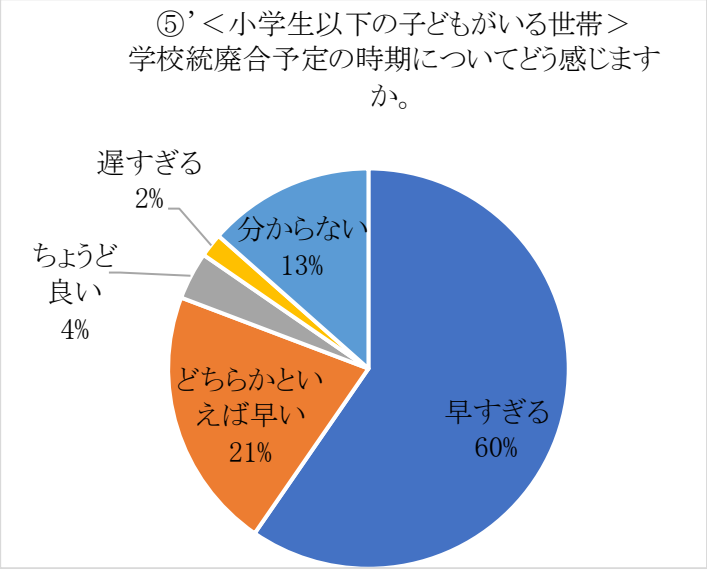
学校統廃合予定の時期について（⑤）では、「早すぎる」50%・「どちらかといえば早い」24%、合わせて7割以上が、令和7年度という学校統廃合予定の時期について早いと感じていることが分かりました。



小学生以下の子どもがいる回答者においては、学校統廃合の時期について（⑤‘）60%が「早すぎる」・21%が「どちらかといえば早い」と回答し、小学生以下の子どもがいる回答者の8割以上が学校統廃合予定の時期について早いと感じていることが分かりました。

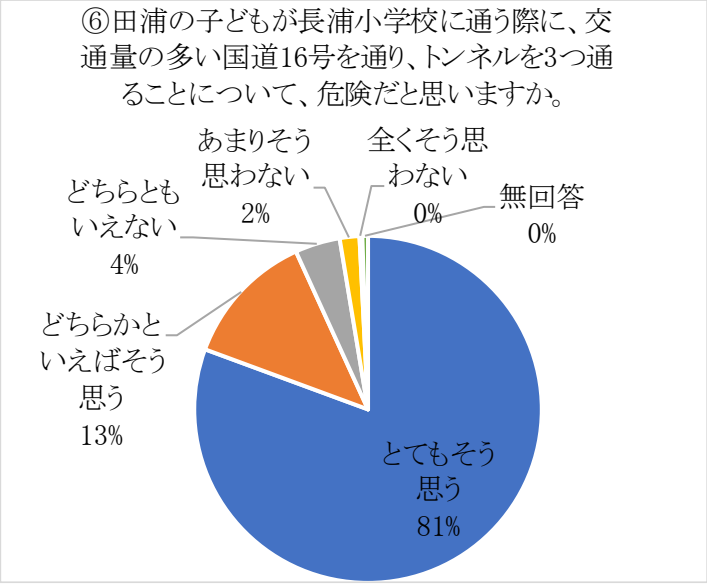
「早すぎる」「どちらかといえば早い」と答えた回答者は、その意見として「後々問題点が出ないように準備する時間をきちんと作った上で決定して欲しい」「各家庭の将来設計に関わることなのに、2年後の統廃合はあまりに乱暴」「学校統廃合は子どもにとっても家庭にとっても大きなストレスとなる。もっと前から決まっていたら、田浦小学校に入学させなかった」「途中で学校環境が突然変わることは避けたい」「入学前に分かっていると越境入学や転居などの選択肢が増える」「田浦小学校に入学させるつもりで田浦に家を建てた」「まだ地域に子どももいるし、統合は早すぎる」「複式学級になってからでも遅くない」「構造躯体の耐用年数である築80年まで使用してから統合するのであれば仕方がないと思うが、まだ

校舎が使用出来る状態での学校統廃合は性急すぎる」などを挙げ、地域の子育て世代の学校統廃合への準備が整っていないこと、校舎がまだ使用できるのに関わらず数年先に統廃合となってしまうことへの疑問を感じていることが読みとれました。



4．学校統廃合後の通学路が危険だと思うか、94%が「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答

学校統廃合後の通学路が危険だと思うか(⑥)では、「とてもそう思う」81%・「どちらかといえばそう思う」13%、合わせて9割以上が、長浦小学校までの通学路を危険と考えていることが分かりました。寄せられた意見では、「長浦小学校まで歩かせるのは反対」「長浦小学校まではあまりにも遠すぎて、通学時間もかかりすぎ、無理がある」「自分の子どもを通わせるのに、交通量の多い国道16号沿いを歩かせるのは嫌」「悪天候の日、体調不良やけがをした時、荷物が多い時もあることを考慮して欲しい」「通学路は狭い・危ないし、万が一子どもが道路に出てしまったらどうするのか」「子どもの安全を第一に考えていただきたい」「大人が歩いても長い距離を、小学生がランドセルを背負って毎日歩くのは危険で、事故や犯罪などに繋がりかねない」「トンネル内を歩行中にトラックが通ると、身体が飛ばされそうになる」「トンネル内を歩行中に、自転車がベルを鳴らしながら横を通り過ぎていき、危険だと感じた経験がある」「帰りが遅くなる場合、冬は暗くなるのが早いのでとても心配」「学校統廃合を協議する皆さんで通学路を歩いてみて欲しい」「通学の大変さにより不登校児童も増えるのでは」「スクールバス・学童擁護員によるサポート等、必ず対策を立てて欲しい」「路線バスでの通学は、乗り遅れや乗り過ごしが心配」「通学路の問題を先送りにして、学校統廃合を先に決めてしまうことだけは絶対に避けて欲しい。時短勤務にして送迎しなきゃダメかな…と毎晩不安で眠れていない」など、多くの住民が長浦小学校への通学路について課題を感じており、対策を求めていることが読み取れます。



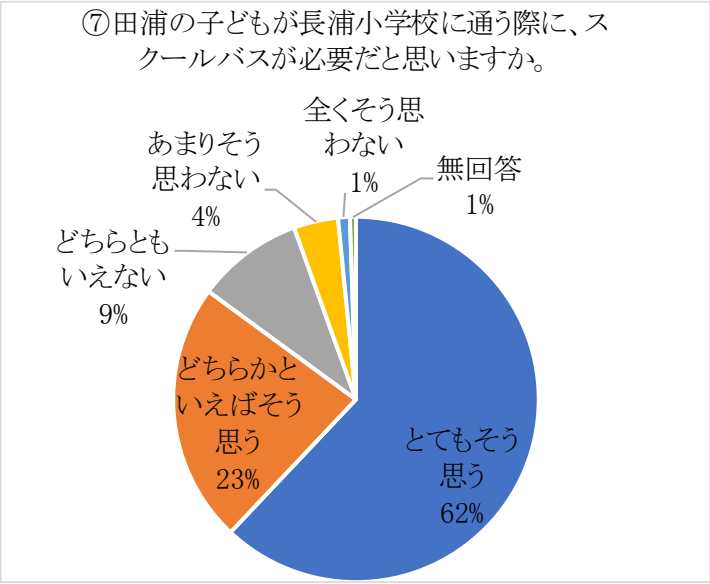
また、学校統廃合における学区について、「田浦小学校区の子ども達全員が長浦小学校へ通うには学区が広すぎるため、学区を見直す必要がある」「船越小学校と統合したほうが良い」「長浦小学校は遠すぎるので、統合するとしたら船越小学校も選べたら良い」「長浦小学校までの通学路の

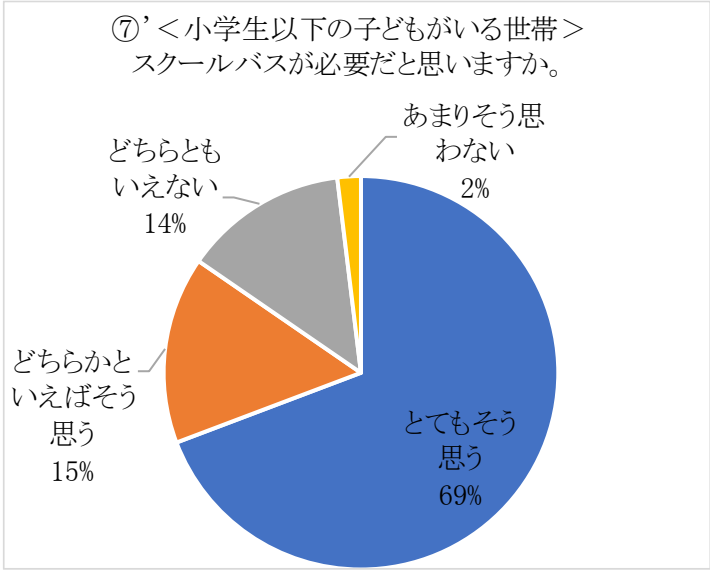
安全性についての対策が立たずに統合となる場合は、子どもを船越小学校に入学させてあげたい」などの意見があり、田浦小学校と長浦小学校だけでなく、船越小学校も交えて学区を検討することが求められていることが分かりました。

5. 学校統廃合後にスクールバスが必要だと思うか、85%が「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答

学校統廃合後にスクールバスが必要だと思うか(⑦)では、「とてもそう思う」62%・「どちらかといえばそう思う」23%、合わせて8割以上が、田浦の子どもが長浦小学校に通う際にスクールバスが必要だと考えていることが分かりました。

小学生以下の子どもがいる回答者においては、学校統廃合後にスクールバスが必要か(⑦')について、「とてもそう思う」69%・「どちらかといえばそう思う」15%、と回答し、小学生以下の子どもがいる回答者の8割以上が、長浦小学校に通う際にスクールバスが必要だと考えていることが分かりました。





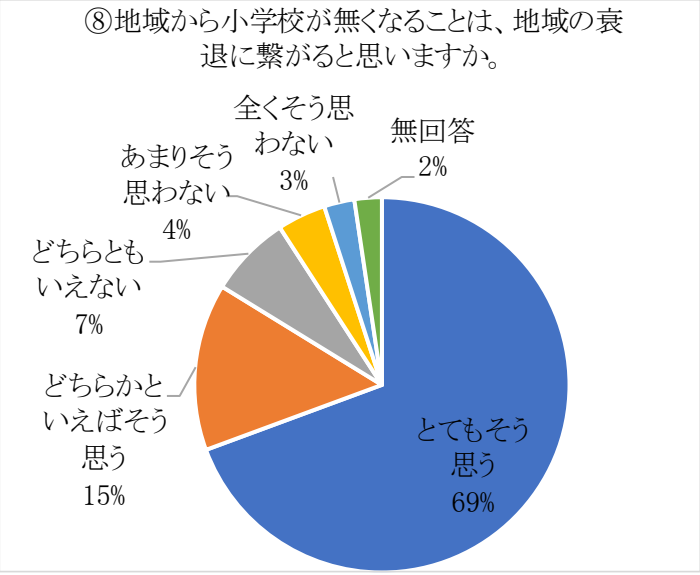
「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた回答者は、その意見として「スクールバスもなく、小学生が片道40分以上かけて学校に歩いて通うことが考えられない」「トンネルが大変危険に感じるので、スクールバスがあればとつくづく感じる」「子どもたちが安全に通えるスクールバスが出せないのであれば統廃合に反対」「スクールバスの実現がある程度決まってから学校統廃合の話を進める方が望ましい」などと回答し、スクールバスの実施策が未確定のまま、計画が進んでいくことへの不安が読み取れます。

スクールバスの運用について、「登校時と下校時両方のスクールバスの運行が必要」「乗り遅れた場合の対策が必要」「放課後の時間も考慮して何便か運行して欲しい」「社会館の車両と乗務員をお借り出来ないか」「田浦小学校の校庭を利用して乗り降りするのはどうか」「田浦一丁目の子どもはトンネル歩行を避けるため JR 田浦駅のロータリーを利用して乗り降りするのはどうか」「長浦コミュニティーセンターを利用して乗り降りするのはどうか」「スクールバスが有料の場合、家庭の事情でスクールバスを利用出来ない子どもが出る可能性も考慮して欲しい」「国道16号沿いの田浦方向から安針台に右折する交差点に車両が数台しか止められないので、時差式信号機にする必要があると思う」「長浦5丁目の子どももスクールバスを利用出来れば良いと思う」という意見がありました。

一方で、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」「どちらともいえない」と答えた回答者より、「路線バスのルートを変更し、安針台を通るようにしたらどうか」「登下校時間帯に路線バスの増便をし

たらどうか」「路線バスの料金に補助を出してはどうか」「登下校パトロールや集団登下校を行ってはどうか」との提案がありました。

6．学校統廃合は地域の衰退につながると思うか、84％が「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答



学校統廃合は地域の衰退につながると思うか（⑧）について、「とてもそう思う」69％・「どちらかといえばそう思う」15％、合わせて8割以上が、田浦小学校の廃止が田浦の衰退につながると考えていることが分かりました。「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」とした回答者は、その意見として「田浦小学校は田浦の希望」「田浦の住民の心の拠り所、文化の中心」「子ども達だけではなく田浦に住む人々にとって大切な場所」「交流の火が消え、死んだ町内になってしまう」「地域の子どもは地域で守る・育てるを心掛けて、子ども達と一緒に田浦の地域を盛り上げていきたい」「子育て世代がこの町に入ってくることは期待出来なくなる」「子どもがいない、活気のない地域になってしまうと思うと不安」「若い世代の流出を招く」「更なる人口減の加速をもたらす」「地元に帰って子どもを育てようということも無くなっていく」「市政が掲げる谷戸の再生に反している」「商店街が廃れてしまう」「避難場所が無くなってしまう」「地域の行事や集まりが実施出来無くなってしまう」「選挙時の投票所が無くなってしまう」などと回答し、小学校が廃止となることで人口減少が進み、子どもがいなくなることで地域の活気が無くなってしまうことや、地域で学校が担っている機能が失われてしまうことへの危惧を抱いていることが読みとれます。

また、田浦小学校を存続させながら、地域を活性化させる取り組みとして、「皆が住みたい町づくり、魅力ある町づくりを考える」「アーティスト村と田浦小学校と地域の交流の推進をする」「スクールコミュニティを推進する」「転居して子育てをしたくなる環境を作る」「田浦小学校にコミュニティーセンターの機能を備えたらどうか」「小学校の一部を老人施設として活用し、子ども達と高齢者が助け合えるような場所とするのはどうか」などの提案がありました。

一方で、「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた方の意見では、「小学校跡地の有効活用による今まで以上の活性化を図る」など、跡地活用への期待が寄せられました。

跡地活用について、「跡地の有効活用について住民が納得のいく説明をして欲しい」との意見がありました。跡地活用の具体案として、「スクールバス乗り場、コミュニティーセンターとして有効活用したらどうか」「社会館と提携したり、地域の活動が学校跡地で行えるようにしたらどうか」「田浦青少年自然の家を移転したらどうか」「校庭を善隣園に貸すのはどうか」などの提案がありました。

以上

田浦小学校の統廃合計画についての要望書

わたしたち《田浦小学校を考える会》では、横須賀市教育委員会及び田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会に今回実施した田浦小学校の統廃合計画についての地域アンケートの結果を共有するとともに、住民から寄せられた声を踏まえて要望書を提出することにしました。横須賀市教育委員会におかれましては、要望書の項目について前向きにご検討いただき、関係部局との協議の場を設けていただきたくお願い申し上げます。

1. 学校統廃合を決定する前に住民説明会を開いて下さい。

多くの住民が学校統廃合について困惑しており、学校統廃合に合意をしていません。このまま計画を進めてしまうことは行政への不信につながります。学校統廃合を決定する前に、住民が納得出来るよう、住民説明会を開催し、住民に情報を共有して下さい。住民の意見を聞く場、質疑応答の場を公に開いて下さい。住民の合意が取れてから学校統廃合を決定して下さい。

2. 学校統廃合の時期について再検討して下さい。

田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会で、教育委員会事務局より、令和7年度に学校統廃合予定という今後のスケジュールが示されました。2年に満たない期間というのは、子育て世代が学校統廃合に向けて将来設計を再構築するのにはあまりに短く、旧校舎の耐用年数が残り11年あることから鑑みても性急だと考えます。子どもや保護者にとって、学校統廃合による学校環境の変化は大変な負担となり得ます。地域の子どもが田浦小学校を卒業し、各家庭が納得した上で地域に住み続けられるよう、十分な期間を設けて下さい。

3. 学校統廃合を決定する前にスクールバスの運用について具体策を出して下さい。

長浦小学校までの通学路は、遠距離であると同時に、多くの危険をはらんでいます。登下校時のスクールバスの実施が具体的に決まってから学校統廃合を決定して下さい。また、スクールバスが有料の場合、スクールバスを利用出来ない子どもが出る可能性も十分に検討して下さい。

4. 学校統廃合を決定する前に跡地活用について住民と協議し、具体策を出して下さい。

小学校は子どもが学ぶ場としてだけでなく、地域における多様な役割を担っています。地域の活性化の為に、跡地活用について住民と十分に協議する場を開き、地域が合意する跡地活用策が具体的に決まってから学校統廃合を決定して下さい。

5. 学校統廃合における課題が全て解決するまで、学校統廃合を決定しないで下さい。

住民の声を十分に聞いた上で、学校統廃合における様々な課題が全て解決してから学校統廃合を決定して下さい。

2023年　5月　19日
田浦小学校を考える会